

議 事 録

件 名	令和3年度しま・ひと・しごと未来づくり事業外部関係者会議	第1回
年 月 日	令和3年8月17日(火)	議事録作成者 宮城
場 所	オンライン会議 (ZOOM)	
出 席 者	委 員：石川満、石川裕憲、與儀光二、長嶺さおり、瀬口浩一、 渡真利克久、赤嶺久美、伊波良和、外間ケイ子、金城一也 事務局：企画政策課 宮城哲博、盛根淳二	
協議内容等	<p>1. 委員長選任</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 事務局より瀬口氏を委員長とする案を提言し、全会一致で瀬口氏を委員長として任命。 <p>2. 評価の流れについて説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 評価の流れを説明した後、質疑応答。 【質疑応答】 (長嶺委員) 評価シートについて後日提出する必要があるか、本日取りまとめるイメージか。 (事務局) 本日取りまとめて決定して頂きたいと考えている。 (長嶺委員) 了解した。 <p>3. 令和2年度しま・ひと・しごと未来づくり事業の効果検証及び評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 島しょ地域の現状と取り組みの経緯を説明し、評価対象となる前年度の事業内容を説明した後、質疑応答。 【質疑応答】 (長嶺委員) ローカルベンチャースクール (以下、LVS) のスタートアップ時に市の補助は入っているのか、自己負担で取り組んでいるのか。 (事務局) 本事業は、スタートアップの資金援助ではなく、各々の事業の方向性を定め適した専門家を伴走者として配置し導くソフト支援となっている。 (長嶺委員) 了解した。 (瀬口委員長) 令和2年度の予算が令和元年度と比較して倍以上になっているのはなぜか。また、感染症が広がり都市圏では郊外に移住したいという方が増えている報道があるが、沖縄県内においても島しょ地域への移住希望者が増え 	

議 事 録

たというようなことはあるのか。

(事務局)

令和元年度の予算については、LVS の設計とお試し移住、中間支援組織の検討として計上しており、中間支援組織の検討を進める中で「旧宮城児童館」を拠点とすることとなり、令和 2 年度に施設改修の基本設計から改修までの概算として予算計上したため倍以上の増額となっている。

しかし、感染症等の影響により実施設計までとなっており、改修工事費用については、補正予算で減額しており、改修工事については、今年度着工を予定している。また、移住希望者については、増加傾向にあるが、紹介できる空き家が少なく断るケースもあるため、空き家の掘り起こしに注力しているところである。

(瀬口委員長)

了解した。

(長嶺委員)

評価シートでは期間が令和 4 年度までとなっているが、今年度も引き続き取り組んでいるという理解でよいか。また、感染症の影響で満足のいく検証もできなかったのではないかと思うが、今後の支援の体制について併せて説明頂きたい。

(事務局)

お見込のとおり今年度も取り組んでおり、来年度以降は別事業として検討しているところ。

移住支援については、年度途中ではあるが今年度、地域の状況把握や地域住民を見守るための集落支援員を会計年度任用職員として任用する予定となっている。

(長嶺委員)

了解した。

(赤嶺委員)

お試し移住について、感染症の影響で県内在住者を対象としたとあるが、どの地域のどういう方々の希望があったのか。また、この状況下では県外からの移住者の受け入れは難しいと思料するが、今後の方向性をどう考えるのか。

(事務局)

那覇市や浦添市など市外在住の方にも島しょ地域に興味を持って頂いており、希望者は予想以上にいる事が判った。また、今後県外からの移住については、行政の判断ではなく、自治会長や地域住民の理解を得ながら取り組んで行きたいと考えている。また、島しょ地域の中でも津堅島の人口減少が著しく、子どもも少ないため積極的に津堅島に移住してもらいたい

議 事 録

との思いから、今年度は津堅島でのお試し移住を予定している。

(赤嶺委員)

了解した。

(委員長)

その他意見はありますか。

無いようですので、これまでの説明及び質疑応答の内容を踏まえ総合評価を行います。

(A～Dまでを読み上げ、挙手にて意思表示をし委員長が集計)

A：これまでの取り組みにより、成果が十分に上がっている。

B：これまでの取り組みにより、相当程度の成果がある。

C：これまでの取り組みによる成果があまり十分でない。

D：これまでの取り組みによる成果が極めて不十分である。

【結果】 A：1名 B：7名 C：1名 D：0

※石川委員一次離席のため後程追加し総合評価を委員長に一任

※閉会后、石川委員の評価 (B) を加え、総合評価 B として決定。

4. 令和2年度企業版ふるさと納税（地方創生応援税制）の効果検証について

- 企業版ふるさと納税（地方創生応援税制）を説明した後、前年度の実績（0件）を報告した後質疑応答。

(瀬口委員長)

ふるさと納税の場合、民間への委託料が高額になると思料するが、企業版ふるさと納税の委託料は如何か。

(事務局)

委託の手数料としては、成功報酬型を検討しており、把握している範囲では、寄付額の1～2割となっている。

(瀬口委員長)

了解した。

(長嶺委員)

寄附をした企業に対し、寄附をしたかどうか判る仕組みとなっているか、もしあれば、かなりPR効果があると思われるが如何か。

(事務局)

市長表敬に伴っての寄附になると思われるため、その際にはマスコミの活用や、広報、ホームページやSNS等を活用し公表したいと考えている。場合に依っては事業の中でのPRも可能ではないかと思われる。

(長嶺委員)

了解した。

議 事 録

(瀬口委員長)

民間事業者へ委託した場合、寄附の際には必ず受託事業者を通さなければ
ならないのか、直接うるま市へ申し出ることも可能なのか。

(事務局)

仮に委託したとしても、直接寄附を頂くことも可能だと考えている。想定
している成功報酬とは受託事業者が寄附を募った分を対象と考えている。
また、この制度はうるま市に本社がある場合には寄附を頂けない仕組みと
なっている。

(瀬口委員長)

了解した。

その他意見はありませんか。

無いようですので、総合評価を行います。

(A～D までを読み上げ、挙手にて意思表示をし委員長が集計)

【結果】 A : 0 名 B : 1 名 C : 6 名 D : 2

※石川委員一次離席のため後程追加し総合評価を委員長に一任

※閉会后、石川委員の評価 (B) を加え、総合評価 C として決定。